

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 佐藤 恵亮

作成日 2024年2月26日

【責任】

薬学部薬学科応用薬学部門公衆衛生学分野に所属し、衛生薬学に関する講義科目（毒性学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、環境科学Ⅱ）を担当している。実習科目としては、衛生医療薬学実習、薬剤師実務体験実習を担当している。また、研究室の学生に対して卒業研究指導や就職指導に携わっている。

【理念】

現在の医療において、薬は必要不可欠な物であり、薬のスペシャリストである薬剤師は医療を支える重要な役割を担っている。現在の薬剤師業務の中には、AI化、ロボット化が進むことで非薬剤師が行う業務が多くなる。調剤は調剤助手が行うことが可能となり薬剤師に求められる仕事に変化しており、指示されないと動けないような薬剤師は淘汰されてしまう未来が予想される。そのため、社会に貢献できる薬剤師となるためには、自ら問題点を発見し解決する能力が必要となる。

私は、「社会に貢献できる薬剤師となるために問題解決能力を身に付けてほしい」と思いながら教育活動を行っている。6年間の薬学教育の中で問題解決能力を養い、自ら学び修得する力を身に付けてほしい。

私が担当している衛生薬学は、基礎と臨床の橋渡しに位置づけられている学問であり、国民の生活を守るための健康や環境に直結する分野である。衛生薬学の重要性を理解し、学びの楽しさを実感しながら社会に貢献できる薬剤師になってほしい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「理解しやすい環境を整える」、「知識の定着」、「問題解決能力を身に着ける」の方針で教育している。

方針1：理解しやすい環境を整える

- ・講義を理解するためにプリントを作成しWEB上にアップロードする（moodle参照）。
- ・講義中に知識を整理する時間を取る。
- ・身近なものに関連付ける説明を心がける。
- ・学生が質問しやすいような雰囲気を作る。
- ・講義の最後に質問時間を取る。

方針2：知識の定着

- ・知識の定着を図るために授業の最後に必ず問題演習を行う（moodle参照）。
- ・定期的に小テストを実施する（moodle参照）。
- ・講義資料の見直しを行い、最新のデータを組み込む。

方針3：問題解決能力を身に着ける

- ・卒業研究テーマを自ら考案させる。
- ・卒業研究において、実験計画を自分で立案させる。

- ・ アドバイスはするが、過保護にならないようにする。

【成果・評価】

- ・ 授業アンケートにおいて、多くの学生から高評価を受けている。
- ・ 学生が卒業研究を学会発表、研究論文として発信している。
- ・ 担当している卒業研究グループの国家試験合格率は平均 90%を維持している。

【目標】

長期目標

- ・ 淘汰されない薬剤師の養成をする。

短期目標

- ・ 授業アンケートに基づいて授業改善を行い担当科目の成績を向上させる。
- ・ 担当科目の国家試験得点率を上げ国家試験合格率を向上させる。
- ・ 大学院への進学を目指すきっかけになるような卒業研究を行う。